

### 351 血液疾患におけるGa-67シンチグラフィの意義

仲山 親, 中田 肇, 高橋里美 (産業医大 放)  
織田 進 (同 一内)

血液疾患におけるGa-67シンチグラフィ (Gaシンチ) の意義について検討した。対象は悪性リンパ腫を除いた白血病, 多発性骨髄腫, 骨髄線維症などの41例で, いずれもGaシンチを施行したものである。

検査方法はGa-67-Citrate (Ga) 3mCi 静注72時間後にシンチカメラで全身を撮像した。判定は脊椎ないし骨盤 (赤色髄存在部位) へのGa集積の程度を肝のactivityと比較し, 肝の集積と同程度以上を陽性とした。また限局性の異常集積の有無にも検討を加え, 14例については骨シンチグラフィ (骨シンチ) と10例については骨髄シンチグラフィ (骨髄シンチ) と比較した。

Gaの脊椎ないし骨盤集積陽性は13例であった。限局性に異常集積を示す例は33例にみられ, 特に各関節部脾および腎に集積を示す例が多かった。骨シンチとの比較では13例で, 関節部の集積は類似していたが, 他の部位では差異がみられた。骨髄シンチとは5例に相反した集積を認め有用な情報を与えた。

Gaシンチは血液疾患において, 骨髄のみでなく髄外の病巣の検出にも有効と思われた。

### 352 乳癌術後症例における上肢リンパ流の検討

大竹英二, 松井謙吾, 猪狩秀則, 川島博之  
小野 慈, 小林 修, 野沢武夫 (横浜市大 放)

腋窩リンパ節郭清を伴うradical mastectomy後の上肢リンパ流の変化を<sup>99m</sup>Tc-HSAの皮内注射によるリンパシンチグラフィで検討した。

方法はすでに報告してきたように<sup>99m</sup>Tc-HSA5~10mCiを手背皮内に注射し, 2分毎30分までの連続イメージをアーカカメラで撮影した。同時に, 30秒毎30分までのデータをコンピュータに入力し, リンパ節や軟部組織の時間・放射能曲線を作成した。

リンパ浮腫のない症例や軽度な症例では鎖骨上リンパ節を通る側副路が発達し, リンパ浮腫の高度な症例では側副路がほとんどみられず, リンパ管のシャ断像, 軟部組織へのRIの著しい逆流を認めた。また, 腋窩リンパ節の描出がみられた症例もあり, リンパ節郭清の程度が診断できた。

### 353 乳癌における局所リンパ動態

近大医一外, 近大放射線科\*, 近大中放\*\*

佐伯裕司, 大和宗久, 奥野清隆, 岩佐善二, 安富正幸  
熊野町子\*, 石田 修\*, 黒田晃代\*\*, 坂下太郎\*\*

Tc-99m-Human Serum Albumin (以下HSA)によるLymphoscintigramにより乳癌における局所リンパ動態を検討した。乳癌群では腫瘍上縁, 対照群は対側乳輪上縁の組織内へTc-99m-HSA 3mCi, 0.3mlを26G皮内針にて注入した。注入直後よりDigital Gamma Camera GCA-90Aを用いて核医学データ処理にて15秒, 1フレーム, 28分間のデータ集収のち, 注入部位, 腋窩, 鎖骨下および胸骨旁領域にROIを設定し放射図を作成した。また所属リンパ節転移はclearing法を用いて検討した。放射図のpatternを腋窩型, 鎖骨下型および胸骨旁型の3型に分けた。対照群では7例全例が胸骨旁型であるが, 乳癌群では胸骨旁型が11例中9例(81.8%), 腋窩型2例(18.2%)で鎖骨下型は認められなかった。またn(+)例はn(-)に比し各領域へのリンパ流は減少していた。注入部位におけるクリアランスカーブは, 一相性の直線を示し, そのT<sub>1/2</sub>は対照群の平均85.4分に対し乳癌群では47.3分と約1/2であった。担癌乳房のリンパ流は健常乳房に比し腋窩型が増加し, リンパは約2倍の速度で流出することが判明した。

### 354 In-111-oxine 標識リンパ球によるリンパ節の描出—悪性リンパ腫と慢性リンパ性白血病を中心に—

松田 信, 内田立身, 高木雄行, 三田正行,  
木村秀夫, 佐藤 正, 油井徳雄, 刈米重夫

(福島医大 一内)

悪性リンパ腫 (ML) と慢性リンパ性白血病 (CLL) におけるリンパ節の描出態度をIn-111-oxineで標識したリンパ球を用いた方法で検討した。

対象は正常人3例, ホジキン病 (HD) 3例, 非ホジキンML 16例 (T細胞型5例, B細胞型8例), 成人T細胞白血病リンパ腫 (ATLL) 1例, CLL 11例 (T細胞型1例, B細胞型9例) であった。In-111-oxineによるリンパ球の標識と実施方法は先の学会で報告した通りである。In-111 標識リンパ球を被検者の肘静脈より投与し, ガンマカメラで臓器分布を経時的に観察した。

正常例では, (体表から触知可能なリンパ節は認められなかった) リンパ節は描出されなかった。HDでは全例で描出され, 1時間後から描出されたものもあった。T-MLでは全例18時間後より描出され, B-MLでは大部分の症例で描出されなかったが, 眼窩内MLの2例でのみ描出された。CLLではT細胞では描出されたが, B細胞では9例中1例でのみ描出された。ATLLでも描出された。以上, T・B細胞型および組織像とリンパ節描出の有無との関係を検討したので報告する。